

うちの会社

板金塗装、シートシャッター、水処理施設の自動監視装置——。一見、なんの関係もない分野の事業を次々と手掛けた。だが、社長の小松昭夫さん(五〇)の考えのなかではすべてがつながり、着実に実績を上げてきた。

二十六歳のとき、技術者として勤めていた機械会社が事実上倒

小松電機産業

〓八東郡八雲村東岩坂

産。資本金十万円を手に自宅の納屋で取水ポンプの修理業を始めた。この時に生かしたモーター修理と塗装の技術が同社の未来を支えた。

十二年後、繊維質を織り込んだ塩化ビニールシートを高速モーターで巻き上げる工場用シートシャッターを発売した。シートは半透明なので鉄製シャッターに比べ工

創業は取水ポンプの修理から

場内は明るい。超音波センサーで感知し、素早く自動的に開閉する。冷暖房を保ち、仕事環境にもよい。これまでに二万五千台以上を売るヒット商品になった。

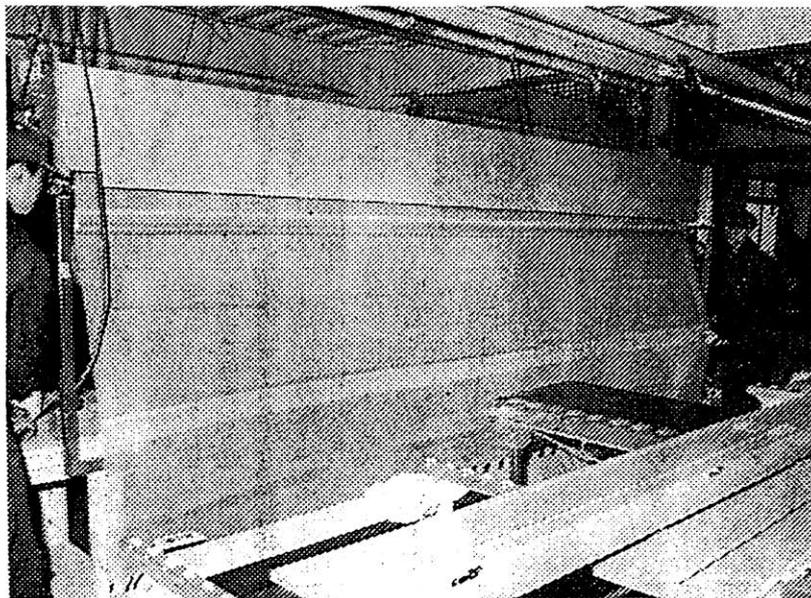
次の転機は宍道湖・中海淡水化計画が凍結された一九八七年に訪れた。宍道湖は農作物に被害を与えやすい塩分を含む汽水湖のまま残った。湖周辺の自治体から「水門にセンサーをつけて、塩分の少ない時はポンプで農地へ取水し、濃くなったらやめる機械をつくれなにか」と相談を受けた。ポンプとセンサーの技術を駆使し、遠隔地で制御できる装置をつくった。

その後も改良を進めた。塩分だけでなく、上下水道などの水質を

夢は島根を環境保全の中心地に

センサーで感知し、情報を一般電話回線で役場のモニターに送り、

遠隔操作する自動監視装置「やくも水神」を開発した。最新型は十センサーが異常を感じたら担当者のポケットベルを鳴らし、緊急通報



製造中の高速シートシャッター。特殊モーターで百万回の開閉ができる

〓八東郡八雲村東岩坂で

する。県内や琵琶湖のある滋賀県など十五自治体が採用している。

三階建て新社屋の玄関には材料が積み上げられ、接客スペースがない。「どんどん事業が進み、資材を置く場所がなくなったので」とシャッター事業部マネジャーの森脇正義さんは苦笑する。

「ここまでくると二十年前かかった。これからの会社の柱は水事業。人類の歴史では石器、金属から火力、そして核を制した者が支配した。これからは水に代表される環境をコントロールした者が天下を制する」と小松社長。宍道湖を抱える島根を環境保全の事業で世界の中心地にしたい、と夢を語った。

メモ 資本金1億円▽従業員数85人▽年商35億円▽韓国企業と技術提携。昨秋、松江市などが造成した工業団地「松江湖南テクノパーク」へ工場、研究部門の施設を移転することを決めた。